

2024年11月22日

横浜市長 山中竹春様
横浜市教育長 下田康晴様

日本共産党横浜市議団 団長 古谷やすひこ

高校生アンケートの結果について

日本共産党横浜市議団は、2023年10月から2024年1月にかけて、市内在住・在学の高校生に向けて、「高校生アンケート」を実施しました。アンケートの内容は、学校生活の満足度や学費や進路、日常生活で悩んでいることなどです。寄せられた声をお届けします。

アンケートの実施方法は市内の駅頭などで行う街角シールアンケート(学費)とWEBアンケートの2種類。街頭シールアンケートの回答は320件で、学費「高い」が258件、「普通」が30件、「安い」が32件でした。

ネットアンケートについては回答が88件。回答者の通っている高校は、県立・市立高校が58.8%、私立は41.2%。市内在住者が74.1%でした。

学費の進路選択への影響について「している」と答えた人は、全体の58.8%。また、学費が高いことへの意見として「親は気にするなど言うが、(大学費用)約400万円は厳しい…」 「行きたい進路があるけど学費が高い。国立に行こうにも塾などに行くお金が無い。きつい」「制服やタブレットや部活動の費用もそれなりにかかる。支援がほしい」「返還不要の給付型奨学金は審査要件が厳しく、進学を希望する誰もが利用出来るものじゃない」などの声が寄せられました。

学校生活については、「満足している」「まあまあ満足している」が7割。「部活や学校行事など、色々あって楽しい」「友達ができた」「テストが多い。トイレ少ない。エアコンない」などが寄せられました。

高校生活でおかしいと感じていることについては、「髪を染められない」など髪型に関する決めごとや服装に関する決め事など、また「スマホの禁止」が複数寄せられました。

横浜市の良いところ、悪いところについては、「どこに行くにもちょうどいい距離でとても住みやすい」「都心に近い」「都会の1面もあり自然もある」「治安が悪い」など。

もしあなたが市長だったらどんなまちづくりを進めるかについては、「お年寄りから赤ちゃんまで、生活上の不安がなく暮らせる街」「こどもや子育て世代にやさしいまち」など。

今後も、市政や政治に高校生の声、若者の声を反映させていく取り組みを進めていきます。市長及び教育長におかれましては、このアンケート結果を今後の市政運営や高校生や当該家庭への支援施策の拡充の参考にしていただき、引き続き高校生が安心して学び暮らしていける横浜市の実現に尽力していただきますようお願いいたします。